

<特筆すべき取り組み一覧> 全8件

取組 No.	施設名	取り組み件名	講 評
1	職業訓練技能センター	一円寺前バス停留所及び駐輪場の修繕	日頃の訓練で培われた技術を生かして地域住民が利用するバス停や駐輪場の塗装を行い、地域の課題解決に大きく寄与した取り組みである。地域貢献のほか、住民の要望に応えたことで、施設の役割を住民の方に知っていただき、イメージアップにつながった点も高く評価できる。
2	産業交流プラザ	ホームページ上に360° VRツアーを掲載	デジタル技術を活用してホームページ上から施設内の様子を閲覧できることにより、利用者の利便性・サービス向上と施設予約時の職員の案内事務負担軽減に寄与した取り組みである。また、遠方や新規利用者等多くの方に施設を知ってもらうことができ、利用率の向上が期待される。
3	アクティブシニアセンター	まなびチャレンジお仕事体験2025	こどもたちに福島で働く魅力と仕事を体験してもらうことで、やりがいのある職業の選択肢があることを紹介でき、将来的な人口流出対策に寄与した取り組みである。こむこむ館および福島商工会議所との連携により、定員に対する申し込みが370%と高い関心を集めており、今後の事業の発展が期待される。
4	道の駅ふくしま	福島おおぞらインター工業団地における連携企画開催	福島おおぞらインター工業団地周辺企業とのコラボレーションによるイベントを企画し、道の駅周辺施設への誘客を促進するとともに、企業のPRに寄与した取り組みである。また、イベントとしてのスキームが構築され、今後のさらなる連携が期待される。
5	小鳥の森	災害で荒廃した水辺の環境再生	災害により利用が困難となっていた水辺について、企業・市民と連携し整備を行うことで水生生物の生息環境向上に努め、絶滅の恐れがある希少な生物の繁殖に寄与した取り組みである。今後はこの場所を活用した事業の開催が期待される。
6	御倉邸（御倉町地区公園）	米蔵を「シン・テラコヤ（寺子屋）」として開放	庭園内の米蔵をこどもの居場所づくり「シン・テラコヤ」を運営する団体に開放し、不登校児童・生徒を中心にこどもが安心して過ごせる場の提供に共創で取り組み、新たなサービスによる施設の認知度向上に寄与した取り組みである。こどもが安心して過ごせる居場所づくりの先行例として市民サービスの向上の視点からも高く評価できる。
7	古閑裕而記念館	旅行者ニーズをとらえた誘客活動	事業者のニーズを捉え、予約システムを導入することで、旅行者ツアーの催行団体を促進し、関東地方以西の入館者割合の向上に寄与した取り組みである。市内観光地等への波及効果も期待される。
8	こむこむ館	夢のたねコンソーシアム事業のバージョンアップ	これまで1つのイベントに対して1社の協力を得て実施していたが、関連する複数の企業を巻き込み、大規模なイベントとして開催方法を工夫することで市内外の企業の高い技術力を直接体験できる貴重な機会となり、1日で3,500人を超え来館者数の大幅増につながったほか、中心市街地活性化にも寄与した取り組みである。

【No.1】特筆すべき取り組み状況報告書

施設名	福島職業訓練技能センター
指定管理者名	職業訓練法人 福島職業訓練技能協会

○特筆すべき取り組みの概要

一円寺前バス停留所及び駐輪場の修繕

【概要】

地元町内会からも要望があったため、令和6年7月26日（金）及び8月3日（土）、職業訓練校建築塗装科の指導員及び訓練生が、日頃の訓練で培われた技術を用い、立子山字砥石（114号線沿い）にある「一円寺前バス停留所」及び隣接の「駐輪場」塗装を行った。

令和6年8月10日（土）には、木造建築科の指導員により、待合所内の木製ベンチ回りの整備を行った。

- ※ 参加者18名(第1回6名、第2回7名、第3回5名)
- ※ 協力 立子山沢尻町会

【効果】

- ① 地域貢献に資する取組み
永年錆びついていた鉄骨造りのバス停が、見違えるように綺麗に仕上がり、住民が快適に利用できるようになった。
- ② 地域の訓練校への理解が深まり、訓練校のPRも図れた。

○取り組み状況等

写真①7月26日塗装(1)



写真②8月3日塗装(2)



写真③8月10日ベンチ回り整備



【No.2】特筆すべき取り組み状況報告書

施設名	産業交流プラザ（会議室及び企画展示室）
指定管理者名	公益財団法人福島県産業振興センター

○特筆すべき取り組みの概要

- (1) ホームページ上に360° VRツアーを掲載
オンライン上でいつでも当施設の導線や会議室内を観覧できるVRツアーを提供することで、利用者の利便性とサービス向上に努めた。
- (2) 賑わいクリスマスイベント開催時にフードドライブを開催した。
福島市で行っている「子どもの居場所づくり」を行っている団体を支援するため、イベント内でフードドライブを実施し、食品の寄付を行った。また子ども食堂MAPも併せて配布し、周知にも努めた。

○取り組み状況等

コラッセふくしま1～5階

VRツアー公開！

当センターホームページにおいて、コラッセふくしま会議室及び、にぎわいスペース（1階アトリウム、5階プレゼンテーションスペース）のVRツアーを公開いたしました。
各会議室、1階～5階フロアを360度画像でご覧いただけます。

1階～2階フロア、及び3階～5階各会議室

<https://www.f-open.or.jp/support/event/guide.html>



1階アトリウム、5階プレゼンテーションスペース

<https://www.f-open.or.jp/support/event/event.html>



下見に行く時間がない、平面図だけではイメージが分からない、部屋だけでなくフロアも含めて建物の雰囲気を知りたいなど、会場探しにぜひご活用ください。

お問合せ先：公益財団法人福島県産業振興センター
会議室受付 024-525-4089
にぎわいイベント受付 024-525-4098

【No.3】特筆すべき取り組み状況報告書

施設名	福島市アクティブシニアセンター・アオウゼ
指定管理者名	株式会社福島まちづくりセンター

○特筆すべき取り組みの概要

講座： こむこむ×アオウゼコラボ企画 まなびチャレンジ お仕事体験 2025

開催日： 2024年8月3日(日)

申込者数：1199名

参加者：502名

※こむこむ館並びに福島商工会議所との連携により、既定の定員数324名に対し370%（1,199名）の申し込みがあり、高い関心を集めることに成功。

参加企業： 11業種

※継続講師4、新規講師7と新規講師の比重が大きく、福島子ども達に「福島にいても、やりがいのある職業の選択肢がある」ことを紹介でき、本事業の目的を達成できた。

継続講師： 福島県立医科大学、福島日産株式会社、ドコモショップ、心たば薬局笹谷店

新規講師（お仕事体験として）：ミサワホーム総合研究所、株式会社アーキトリップ、デジタルハリウッド福島、ナチュリ、アールグレイ、幸峰あかさん、ユキマサ学会

○取り組み状況等

当日の様子：



【No.4】特筆すべき取り組み状況報告書

施設名	道の駅ふくしま
指定管理者名	株式会社ファーマーズ・フォレスト

○特筆すべき取り組みの概要

福島おおぞそうインター工業団地における連携企画開催について

株式会社菊池製作所おおぞそう研究所との共催で、「熱気球と紅葉散歩とロボット見学in福島おおぞそうインター工業団地」を企画、開催しました。この企画は「福島市地域資源を活用した観光コンテンツ創造支援事業」として実施しました。

日時：令和6年11月3日(日) 9:00~14:00

会場：菊池製作所 おおぞそう研究所

開催内容：・熱気球係留体験搭乗会 ※当日強風の影響によりフライトは中止

・ロボット見学会

・福島市保健所ブース

ご来場者：約300名

当日は強風により熱気球のフライトは中止となりましたが、研究所と当施設を往来する人の流れが生まれました。また、イベントとしてのスキームが構築されましたので、今年5月にも同様のイベントを企画、継続的な取り組みを実施してまいります。

○取り組み状況等

2024年11月3日(日) 9:00~14:00

会場：菊池製作所 おおぞそう研究所 (福島市大倉玉町1-1)
※道の駅ふくしま駐車場より徒歩3分程度

開催内容：
① 熱気球係留体験搭乗会 9:00~13:00
② ロボット見学会 9:00~14:00
③ 福島市保健所ブース 9:00~13:00

料金：
① 小学生以上 2,000円 未就学児 1,500円
※道の駅ふくしまの売店所で使える商品券(500円分/人)の特典付き！
② 無料 ※見学会の体験・試演については事前予約の制あり

事前申込：道の駅ふくしま一円遊手形「縁」(アプリ)より予約
※前日(11月2日)の17:00まで受付(予約は随時キャンセル可)
当日受付：当日受付の整理券を配布
※前日(11月3日)の16:30より会場内受付にて配布
※当日は入場券を配布せず、整理券(参加券)のみで入場可
※当日の申込については要領をご覧ください

会場MAP

福島市地域資源を活用した観光コンテンツ創造支援事業

ふくしま健康づくりプラン 2024 「健脚」「遊しお」



↑ 菊池製作所敷地内にて、電動アシストのキックボード体験(後方に道の駅ふくしまと吾妻連峰)



↑ 天候の影響で気球は飛ばせませんでしたが、バーナーを焚いての記念撮影



→ 菊池製作所おおぞそう研究所内にて、お子さまを対象にドローン飛行体験

【No.5】特筆すべき取り組み状況報告書

施設名	福島市小鳥の森
指定管理者名	NPO法人野鳥の会ふくしま

○特筆すべき取り組みの概要

災害で荒廃した水辺の環境再生

○小鳥の森の観察路 カワセミの小径28～29（旧棚田）

2019年の台風被害のため観察場所として利用が難しくなっていた旧棚田は、これまで安全管理のための草刈り等最低限の維持しかできなかった。小鳥の森は企業（福島キャノン株式会社）からのボランティア協力の話を受け、協働で水辺の溜まった泥上げや水路の整備などを行った。結果、水生生物の生息環境を整える成果を上げることができた。また、ふくしまレッドリスト準絶滅危惧種に指定されているニホンアカガエルやヤマアカガエルの産卵が認められ、希少な両生類の繁殖場所として進展できた。加えて、利用者が水辺にアプローチできるように簡易な観察路を整備、柵も設置した。令和7年度はこの場所をさらに活用し、福島キャノン株式会社と協働で一般向けの観察会を開催する計画である。

○小鳥の森の観察路 カワセミの小径1～2（トンボ池）

環境保全ボランティアを通して市民と協働で水辺に溜まった泥上げと草刈りを行った。水辺で観察を続けている環境省レッドリスト準絶滅危惧およびふくしまレッドリスト準絶滅危惧に指定されているアカハライモリの数は過去最多となった。また新たに観察路も整備し、来園者がカタクリの花など季節の植物を容易に観察できるようにした。

○取り組み状況等



↑ 企業との協働作業の様子



← 観察路と柵の設置

【No.6】特筆すべき取り組み状況報告書

施設名	旧日本銀行福島支店支店長役宅 御倉邸
指定管理者名	NPO法人御倉町かわいまちづくり協議会

○特筆すべき取り組みの概要

令和5年7月から御倉邸庭園内にある米蔵を利用し、「シン・テラコヤ」を始めました。小学校校長を退職された方から、「学校に行かない選択をしている子どもや行きたいけれど踏み出せない子どもが自宅から1歩出て過ごせる場所作りをしたい。」と提案があり、自由に使用してもらえる米蔵ならできるかもしれないと考えました。シン・テラコヤは、あつまーを運営している先生やスタッフがいるので指定管理者から人員を出さずに子どもたちの世話をしています。毎週木曜日に米蔵を開放しており、令和5年度は1桁の人数で細々と続けてきましたが、令和6年度になり毎週20名を越す参加者が来るようになりました（参加者実績：令和5年度206名・令和6年度714名）。子どもだけではなく、悩みを持つ親の話し相手もしています。学校に行けるようになった子どももいて、この活動の意義を感じることができました。子どもたちは庭の植物や虫に興味を持ち毎週木曜日はにぎやかに過ごしています。御倉邸利用者は高齢者が多いので子どもたちの声が響くことに心配もありましたが、現在まで子どもの声に対するクレームはありません。元気な子どもの声は明るくなって良いというお言葉をいただいております。学校に行けず閉じこもりがちな子どもたちの助けの場所になってほしいと思います。

○取り組み状況等



【No.7】特筆すべき取り組み状況報告書

施設名	福島市古関裕而記念館
指定管理者名	公益財団法人福島市振興公社

○特筆すべき取り組みの概要

旅行者ニーズをとらえた誘客活動

団体入館者を受け入れるためにホームページに設置された予約システムを活用し、旅行者ツアーの催行を呼び掛けている。ホームページから24時間申込が可能で、受け入れができない日はあらかじめ受付ができない等の措置を取っているため、事業者には好評である。また、来館した旅行者のニーズに合わせたお出迎えや案内、古関氏に関する説明をすることで再度のツアーの催行を促している。これらの取り組みにより、団体入館の割合が増え西日本からの来館も増加していると思われる。

令和6年度国内入館者割合

関東地方以西	49.6%	9,056人	(前年比)	+3.7%
(内中部地方以西)	17.8%	3,241人	(前年比)	+6.3%

○取り組み状況等



【No.8】特筆すべき取り組み状況報告書

施設名	福島市子どもの夢を育む施設「こむこむ館」
指定管理者名	公益財団法人福島市振興公社

○特筆すべき取り組みの概要

夢のたねコンソーシアム事業のバージョンアップ

～関連する多くの企業・団体を巻き込んだ多面的な事業へと進化～

「福島KIDS AUTO SALON ～次世代に自動車に関する技術を伝えよう～」

・車を製造や修理する技術子ども達にわかりやすく解説や体験してもらい、車への関心を持ってもらう事業を、エンジンや板金などを担う各企業が集結し事業を開催。車の各パーツを担う企業がネットワークにより広がりを見せ、多くの企業に協力いただくことができた。パトカー、白バイ、スーパーカー、レーシングカーも来場したほか、ドアパネルへこみ引き出し体験、車の絵の缶バッジ作り、こども免許証作り、木製の車への塗装体験等を行いました。

また、各コーナーに車の技術に関心ある福島県立福島商業高等学校の生徒が、ボランティアでお手伝いいただきました。

大人から子どもまで一緒に楽しめる事業として、あふれるばかりの入場者を迎えることができ、中心市街地を活性化できる事業ともなりました。

令和6年4月21日(日) 午前9時30分～午後4時 こむこむ館及び屋外駐車場

予算0円 協力会社10社 来場者数3,574人

○取り組み状況等



↑エンジンの仕組み、工具コーナー（有限会社ジーイングテクノエンジニアリング）



↑ミニ四駆組立、体験走行会（株式会社真帆路、車で遊ぼう!チーム）



↑ワゴン車バックドアを利用した射的コーナー（株式会社Bande）



↑木製の車塗装(森永乳業ミルクペイント)組立体験（株式会社アサカ塗料商会）



← スーパーカー、レーシングカー（F4）乗車体験、撮影コーナー（有限会社ジーイングテクノエンジニアリング、株式会社HELM、コンペティションカーサービス、株式会社トライポジャパン東京本社、福島警察署）